

まっすぐ、真剣。



NHK 新生プラン

—平成18年度～20年度の経営ビジョンに向けて—

平成17年9月20日
日本放送協会

昨年の夏以来、多くの方々から、“不祥事は許せない”、“都合の悪いことを隠ぺいしてきたのではないか”など、NHKに対する厳しいご批判やご意見をいただきました。

こうした声を重く受け止め、NHKは、自らをあらためて見つめ直しました。「ふれあいミーティング」でのご意見、電話や電子メールで寄せられた視聴者のみなさんの声、「デジタル時代のNHK懇談会」での有識者の方々のご意見などをお聞きしながら、NHKがどう変わるべきかを真剣に考えました。

何よりもまず、不正を起さないための内部規律を強化し、不正に対する厳正な処分と公表を行っています。受信料を効率的に使い、経費の削減に努めるなど、健全で透明性の高い組織を目指して経営の改革を続けます。

NHKは今、「すべては視聴者のみなさんのために」という公共放送の原点に立ち返り、新たに出発をします。

さまざまな改革を行い、視聴者のみなさんの信頼を一日も早く取り戻して受信料収入の回復を図り、財政の再建に取り組みます。そして、デジタル時代にふさわしい公共放送としての役割を果たします。

「NHK新生プラン」は、こうした決意でまとめたものです。

この「NHK新生プラン」をもとに、来年1月、平成18年度～20年度の経営ビジョンを公表する予定です。



「すべては視聴者のみなさんのために」 —新生NHKの決意—

<公共放送の使命>

- NHKは、視聴者のみなさんのために、公共放送としての使命をしっかりと果たします。

何人からの圧力や働きかけにも左右されることなく、放送の自主自律を貫き、みなさんの判断のよりどころとなる情報や豊かな文化を、いつでも、どこでも、誰にでもわけへだてなく伝えます。

- 広告収入でもなく、税金でもなく、視聴者のみなさんに「受信料」を広く負担していただいている公共放送だからこそ、NHKは、視聴率や特定の主義主張にとらわれることなく、ニュースの取材や番組制作を行うことができます。

NHKは、みなさんに支えられてこそ成り立つ放送局です。

「すべては視聴者のみなさんのために」という原点にいま一度立ち返ります。

<視聴者のみなさんにかかれたNHK>

- NHKを支えていただくみなさんの声を経営や放送に積極的に生かします。全国各地で開催する「ふれあいミーティング」をはじめ、あらゆる機会を通じてみなさんのご意見やご提案をお聞きし、番組や業務に的確に反映させます。寄せられたご意見や反映した事例を番組やホームページなどでお伝えします。

- NHKの放送に携わる者が取材や番組制作を行う上で判断の指針とするガイドラインを新たに作成し、公表します。

<デジタル時代に果たす役割>

- 多様なメディアが発達し膨大な情報が飛び交う時代を迎えました。そうした時代に、NHKは、公共放送として確かな情報を提供するとともに、デジタル技術を活用した便利で役に立つ放送サービスの実現に向けて取り組み、視聴者のみなさん一人ひとりが、安心して心豊かに暮らせる社会に貢献します。

<新生NHKの事業運営の柱>

1. 視聴者第一主義に立って“NHKだからできる”放送を追求します。
2. 組織や業務の大幅な改革、スリム化を推進します。
3. 受信料の公平負担に全力で取り組みます。

1. 視聴者第一主義に立って

“NHKだからできる”放送を追求します

受信料で成り立つ公共放送として、放送の自主自律を堅持します。
視聴者のみなさんの声を何よりも大切に、真に役立つ放送サービスを徹底的に追求します。

■ “NHKだからできる”放送をさらに充実します。

- いざという時に頼りになる、迅速で的確な災害報道・緊急報道
- 情報のはんらんする中で、確かな指針となるニュースや大型企画番組
- 子どもたちを健やかにはぐくむ教育番組、高齢者や障害者のくらしに役立つ福祉番組
- 人々の心に響くドラマ、深く時代を見つめるドキュメンタリーなど、次の時代に引き継ぐ質の高い番組
- 地域に密着し、地域社会の発展に貢献する地域放送と全国発信
- 世界の放送機関と協力・連携するとともに、日本の最新の動きと文化を世界に発信
- 国民的財産である貴重な映像記録の蓄積を生かす番組、サービス

■ 視聴者第一主義に立った開かれた番組づくりに取り組みます。

- 視聴者のみなさんの声をしっかりと受け止め、その声を反映させた番組づくりや番組編成
- 日本が直面する課題から身近な問題まで、視聴者が議論に参加し解決策を考えていく“視聴者とともに作る”番組
- 優れた制作能力を持つ外部の人材などの新しい発想や多様な視点を取り入れた、開かれた番組づくり

■ 放送のデジタル化を進め、視聴者のみなさんにとって利便性の高い新しい公共放送サービスを開発します。

- 地上デジタル放送、BSデジタル放送の着実な普及促進
- 移動中に携帯端末などでテレビを見たり、デジタル録画機に記録した番組を、好きな時間に選んで見るなど、視聴形態の多様化に対応した新たなサービスの開発
- デジタル技術を活用し、誰もが等しく情報を得ることができる、“人にやさしい”放送への取り組み

2. 組織や業務の大幅な改革、スリム化を推進します

厳しい財政状況を踏まえて、大切な受信料を効率的に使い、多様化する視聴者のみなさんの要望に迅速的確に応えるため、組織の簡素化や職員の削減を行い、仕事の進め方も抜本的に見直し、スリムで活力ある体制を作ります。

- デジタル時代に対応できる番組制作力の強化に重点をおいた体制を構築するため、部や局の統廃合、管理部門の縮小など組織の改革を推進します。
- 多様で質の高い放送の充実のために、NHKの制作者と外部の制作者が番組の企画、制作を競い合う仕組みを本格的に導入することなどにより、組織のいっそうの活性化を促します。
- あらゆる部門において徹底した業務改革や業務の見直しを行い、経費の削減を図ります。放送設備の整備計画や教育テレビ、衛星ハイビジョンの24時間終夜放送などを見直します。
- 放送の質の確保を図りながらも、平成18年度から3年間で全職員の10%、1200人を削減します。
- NHKの関連団体についても、NHKと一体となった諸改革を進め、時代にふさわしい再編成を行います。

3. 受信料の公平負担に全力で取り組みます

受信料の支払い拒否・保留が増え、受信料をお支払いいただいている多くの方々から「不公平だ」という声が寄せられています。

みなさんにお支払いいただく受信料があるからこそ、NHKは公共放送として、放送の自主自律を貫き、確かな情報や豊かな文化をわけへだてなく伝えることができます。

NHKは、視聴者のみなさんの信頼を取り戻すために、あらゆる改革を進めています。その上で、さらに、時代の変化にあわせた効果的な施策を行い、受信料を公平に負担していただけるよう全力で取り組みます。

- 単身赴任者や学生の料金割引制の新設など、より公平で合理的な受信料体系を検討します。
- 口座振替でお支払いいただいている方、長期にお支払いいただいている方などに対する優遇施策を実施します。
- 受信料未払いの方や未契約の方を対象に、受信料制度の意義やNHKの改革について、訪問や文書などを通じて丁寧に説明し支払いをお願いしていきます。こうした努力を重ねた上でもなお、お支払いいただけない場合は、民事手続きによる受信料の支払督促の活用などについて検討し、受信料を公平に負担していただけるよう全力で取り組みます。